

厚別図書館からのお知らせ

■たのしいお話会

▷日時 3月14日(土)、21日(祝)、28日(土)、4月4日(土)14時～ ▷費用 無料。直接会場へ

■世界自閉症啓発デー 関連図書展示

「世界自閉症啓発デー」(4月2日)および「発達障がい啓発週間」(4月2日～8日)に合わせ、自閉症や発達障がいに関する図書を展示します。

▷実施日 3月26日(木)～4月7日(火) ▷費用 無料。直接会場へ

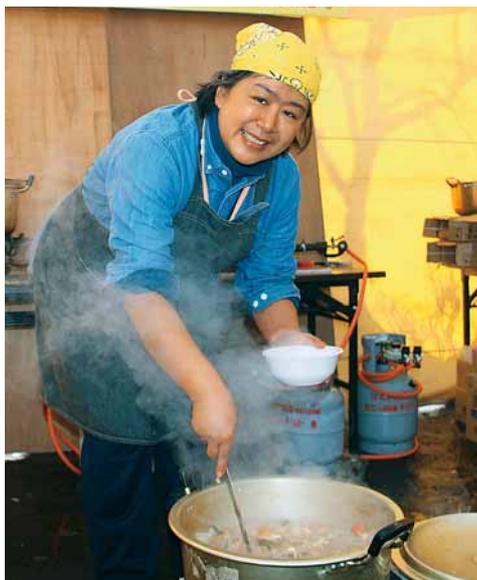
◻会場・詳細◻ 厚別図書館 ☎894-1590



震災を [インタビュー] 風化させない

東日本大震災が発生してから4年がたとうとしています。震災の影響で、今も被災された方々が厚別区で生活しています。あの悲しみを繰り返さないためにいま一度、私たちにできることを考えてみませんか。

「新さっぽろ冬まつり」で東北地方の郷土料理「芋煮」を振る舞う穴戸隆子さん



ししと たかこ
穴戸 隆子 さん (避難者自治組織「桜会」代表)

2011年6月、原発事故による放射能被害を懸念し、福島県から厚別区へ避難。避難先の団地に住む避難者と共に自治組織「桜会」を結成。避難者の支援活動も積極的に行っている。

——東日本大震災の発生から4年が経過しようとしています。現在の生活の様子を教えてください。

私が厚別区へ避難してきて現在生活している団地では、小さな子どもを連れた避難者が多かったのですが、その子どもたちも大きくなって小学生や中学生になりました。また、新しい命も誕生しようとしています。地域にも徐々に溶け込んで生活ができるようになってきたと思います。1月31日、2月1日に行われた「新さっぽろ冬まつり」では、東北地方の郷土料理である「芋煮」を区民の皆さんに食べていただきました。「これを楽しみにしていたんだよ」「また来年もお願いね」と、声を掛けてもらえる喜びを改めて感じたところです。

——震災や原発事故、防災について講演や被災者の支援をされると聞きました。

社会福祉協議会などさまざまな団体から要望があり、札幌市内・近郊の他、遠くは釧路やせたなで、震災や原発事故のことをお話させていただいています。私たちに何が起こったのかを聞いてもらうことで、皆さんの生活のヒントになるのではないかと思います。

また以前は、「東日本大震災市民支援ネットワーク・札幌むすびば」で被災者の支援活動を行っていま

したが、昨年3月末でいったん活動を終わりました。現在、そこから派生したチームに分かれて活動をしています。私は「こだまプロジェクト」という取り組みに力を入れていて、震災や原発事故のことを伝えていくため、映画の上映会や大学の先生に講演会をしてもらったりしています。

——いま一度、被災された経験から、災害に備えて、私たちはどのようなことをしておくべきでしょうか？

まずは、地域の人同士が助け合う人間関係を築くことが大事だと思います。厚別区では多くの町内会が自主的に災害への備えを進めていたり、お祭りなどを自分たちで開催して、つながりを深めているので素晴らしいと感じています。

また、いざ災害が起こった時、役立つのは過去の経験や自分自身で考えたことだけです。全国でさまざまな災害が発生した時、自分だったらどうだろうと想像して確認しておくことで、いざというときも迅速に行動できるようになります。

さらに考えてほしいことは、札幌周辺で災害が起こった時のことです。避難してくる人の受け入れや物資が少なくなるなど、不便なことや多くの問題が生じます。災害はすぐ近くで起こります。そのことを自覚してほしいと思います。

広告